

# わくわく 本だな



## こんげつの おすすめ

★ = 1・2年  
★★ = 3・4年  
★★★ = 5・6年

### 『世界とであうえほん』 (えほん)

辻原 康夫/監修 村田 ひろこ/ぶん・デザイン  
てづか あけみ/絵 パイインターナショナル



いろいろなくにのふくやたべもの、あいさつなどがしょうかいされています。たとえば、インドのあいさつは「ナマステ！」

### 『くろくまレストランのひみつ』 ★

小手鞠 るい/作 土田 義晴/絵 金の星社



くろくまがレストランをひらきますが、ちっともおきやくがきません。としょかんでそうだんすると、一さつの古い本をかしてくれました。

### 『おとのさまのじてんしゃ』 ★

中川 ひろたか/作 田中 六大/絵 佼成出版社

おしろからまちを見ていたおとのさまが、じてんしゃを見つけました。「あれにのりたい！」おとのさまはなんどもころび、なかなかのれません。



### 『はじまりのはじまりのはじまりのおわり 小さいカタツムリとちょっと小さいアリの冒険』

★★★ アヴィ/作 トリシャ・トウサ/画

松田 青子/訳 福音館書店

カタツムリとアリがぼうけんの旅に出ました。あんまりゆっくりなので、アリは思わず走りだします。



### 『ラビントットと空の魚①』

『<sup>かつお</sup>鰹のたんぼ釣り』 ★★★ 越智 典子/作

にしざか ひろみ/絵 福音館書店

ラビントットは、空とぶ魚をつかまえる漁師です。ある日、お祝い用の魚を注文されて、初めての鰹釣りに挑戦することになりました。



### 『まるごとキャベツ』 (ちしきの本)

八田 尚子/文 野村 まり子/絵

絵本塾出版



春にとれるキャベツはあまい!? むかしは薬として使われていたってほんと?葉っぱがいくつも巻いていくなぞもわかります。



# あたらしく 是った本

## 『アリゲイタばあさんはがんこもの』

(えほん)

松山 円香／作 小学館



がんこで、いつもひとりぼっちのわにのアリゲイタばあさん。ある日、自分であんだマフラーをたくさんもって、どこかへでかけました。

## 『サーカスの少年と鳥になった女の子』

(えほん)

ジェーン・レイ／作・絵 河野 万里子／訳 徳間書店

アーメッドが見つけた金のたまごから、女の子が生まれました。ことりのように歌う女の子は、サーカスのみせものにされてしまいます。



## 『ふしぎなやまびこしゃしんかん』 ★

中島 和子／作 秋里 信子／絵 金の星社



おじいちゃんのしゃしんかんで、男の人のしゃしんをとった、ゆい。でもそこにうつっていたのは、キツネだったのです！

## 『おぼっちのブイサイン』 ★★

後藤 みわこ／作 よこやま ようへい／絵

くもん出版

病気で入院中のメイのお婆さんは、ぜったいよわねをはきません。メイがママとおみまいに行くと、いつも楽しいゲームを考えてくれるのです。



## 『じいちゃんの森』 ★★

小原 麻由美／作 黒井 健／絵

PHP 出版社

空気がきれいな、じいちゃんの家  
に引っこしてきた、たいち一家。そこには、“森おやじ”という五百歳さいの大きなクヌギの木がありました。



## 『初恋日和』 ★★★

佐藤 佳代／作 中井 絵津子／絵 岩崎書店



美咲は、さいきんとなりの席の伊藤君が気になります。でも幼なじみの三宅さんも、伊藤君がすきなようで…。

## 『ぼくとヨシュと水色の空』 ★★★

ジューグリット・ツェーフエルト／作

はたさわ ゆうこ／訳 徳間書店



ヨシュはいつも、いじめっ子からヤンをかばってくれる。それなのに、ある日、ヨシュが悪いことをしたと疑われ、姿を消してしまった。

## 『日本の神さま絵図鑑②』

みぢかにいる神さま』 (ちしきの本)

松尾 恒一／監修 ミネルヴァ書房

人を守ってくれる神さまを紹介しています。家にはトイレの神さま、外には道の神さまがいるんですよ。



## 『いつか帰りたいぼくのふるさと』

(ちしきの本)

大塚 敦子／写真・文 小学館

福島県で飼われていたねこのキティ。近くの発電所がじこをおこし、家族がいなくなっていました。



読みたい本、さがしている本は窓口で聞いてね！としょかんのホームページも見てください。

< 編集・発行 > 富山市立図書館 富山市丸の内1丁目4-50 電話 076-432-7273